

領域	対象	具体的な目標	目標達成のための行動計画・方策など	評価	意見・評価の理由
教育活動	全般	生徒の自主性を育てる	生徒自らの手で主体的・自主的な学校生活を送るための支援。 「自治の校風」の理想の具現化に向けた活動の保障と指導助言	4.0	【自治活動支援】 ・学年行事の運営等の中で育っている。 ・科学の甲子園予選に向けて自主的に取り組ませている。(理科・数学) ・さまざまな行事を、一律に中止してしまうのではなく、実施する方向を生徒と共に探ることが、自治の支援となった。(生徒会) 【自治活動成果】 ・文化祭をはじめとした各種生徒会行事を、「コロナ感染対策」という要素を組み込みつつ、計画・実施することができた。(生徒会)
	学習指導	広い分野で確かな学力を養う	基礎学力の育成。 自学自習ができる向上心・探究心の涵養。 探究的な学びの推進。	4.1	【土曜日活用の研究】 ・信大連携ゼミの実施(1年) ・深志教養ゼミの実施(2年) ・卒業30周年記念事業としての、卒業生による特別講義の実施 【学年の実践】 ・1年夏休みにキャリア研修を実施し、大学と学問研究、企業と職業について理解を深めた。また、外部講師による実践的な講演など、「総合的な探究の時間」を活用し、SDGsについて探究的な学び・グループワークを行った。(1年) ・探究の時間や夏休みを利用して、生徒が進んで探究活動ができるよう取り組んだ。(2年)
	進路指導	進路希望の実現を図る	新教育課程の研究。 生徒の資質・能力を高める指導方法の研究。	3.7	【教育課程の研究】 ・新教育課程における教科の役割の研究。 ・新学習指導要領最初の共通テスト科目に合わせて、新教育課程の修正ができた。(研究部) ・今年度の2年次から人文科学、自然科学、自然科学特別探究コースを設置した。 【探究活動】 ・外部講師による進路講演や総合的な探究の時間を活用し、自分の進路について考えさせ、目標設定を促した。(1年) ・夏休み以降、生徒に進路について調べさせ、3年次の選択科目を考えさせた。(2年) ・思考力を問う問題に対応出来るような問題にも取り組んだ。(3年)
	進路指導	計画的なキャリア教育を行う	外部講師による進路講演会、大学説明会、卒業生との懇談、進路通信、学年集会、個別面談、適性検査等を通じた進路意識の啓発。企業や大学と連携したキャリア教育の充実。教員を対象とした進路指導研修会の実施。	3.9	【学年進路】 ・外部講師による進路講演や総合的な探究の時間を活用し、自分の進路について考えさせ、目標設定を促した。(1年) ・4月に信学会の唐澤和宏先生より「入試の総括と今後の学習の進め方」という演題のもと、Zoomで生徒に講演を配信した。(1年) ・ベネッセにより、複数回の模試の課題分析会を行った。 【探究活動・キャリア教育】 ・個別指導・補習授業の実践。 ・課題探究や連携講座など探究的な学びに繋がる活動の支援をした。(外国語) ・京都大学学部のコーディネーター事業を活用。
	生徒の自治	自治活動を保障し 自治的精神を育成する	学級活動・部活動・生徒会活動における生徒の自主性や、リーダー育成のための機会の保障と指導助言。 文化祭・講演会など生徒会行事に対する支援と指導助言。	4.1	【自治活動の涵養】 ・文化祭の実施に当たっては、ガイドライン作りから、事前、あるいは当日の感染対策まで、さまざまな取り組みについて、生徒の主体的な取り組みの支援ができた。(生徒会) 【生徒会】 ・生徒会役員選挙・クラスマッチ等についても、「コロナ感染対策」という新しい要素を組み込みつつ、進めることができた。(生徒会)
	生活指導	規律ある生活のリズムをつくる	学習を中心とした生活リズムの確立(部活動・生徒会活動の時間の適正化)。 清掃・保健・交通安全指導。	3.5	【生活リズムの管理・交通安全】 ・自転車事故防止と交通マナー向上のため、ステッカー貼付呼びかけ、HRでの注意喚起を行った。また、全職員による街頭指導(10月～11月)を実施した。 ・事故が起こった場合には、各学年で注意喚起を迅速に行なった。 ・文化祭準備については、コロナ感染対策の観点から時間的な制限をかけたが、限られた時間を、工夫して活用することができた。(生徒会) 【学年の実践】 ・生徒の安全に関する講習を、入学間もない時期に行い、事故の危機管理への意識を高めた。(SNS、携帯電話等の扱いについて、性教育講話など)(1年) ・コロナによる影響もあったが、オンライン授業などにより生徒の生活習慣も乱れることがなかったと思われる。欠席・欠課も多くないと感じる。(2年) ・ほとんどの日で対面授業を行ったため、生活リズムを保てた。(3年)
学校運営	開かれた学校	保護者との連携を図る	PTA総会の開催、学年・学級PTAの開催。 地区PTAの開催。 保護者面談の実施、適切な家庭訪問の実施。 緊急時一斉メール配信システムの活用	4.0	【緊急時メール配信システム】 ・新型コロナウイルス感染症への対応や、日課・行事予定等の変更などを、一斉配信メールシステムを活用して、生徒・保護者に連絡した。 ・各学年では、必要な情報が確実に届くよう、教育クラウドサービスを活用した情報発信に努めている。 【PTA活動・他校との交流】 ・本年度前半はコロナ感染症の影響を受け他校との交流や総会・学級・学年PTAの開催が書面のみにとどまった。ただし、できる限り委員の意見を取り入れ、反映できるように努力した。地区PTAも一地区開催した。 【学年等の実践】 ・本年度前半はコロナ感染症の影響を受け、学年PTAの開催が書面のみにとどまったが、学年に対してや研修旅行に関する質問・要望などへの応答をWebを中心として行った。(1年) ・学年PTAは開催できなかった。穂高地区PTAに参加した。また、個別の面談などで家庭とは連携が図られている。(2年) ・YouTubeを利用して、講演会を配信した。(3年)
	開かれた学校	開かれた学校をめざす	「評価および公開方法」の改善と充実。 保護者・地域・中学校への情報発信。 公開授業・中学生体験入学等の実施。 学校評議員会の開催、ホームページの充実。	4.0	【授業公開・体験入学】 ・体験入学は、動画配信に切り替えて実施した。参加を予定したすべての中学生に対して、生徒会が中心となって作成した動画や、学校案内等の資料を届けることができた。(教務) 【中学校・地域への発信】 ・中学生に対しては、文化祭・体験入学で、来校機会を作ることができなかったため、本校の雰囲気やクラブなどの生徒の様子を伝えたいという思いがある。(教務) ・中学校から進路講話の依頼があった場合は、情報発信の機会として対応している。 ・文化祭では、地域の方も招いて一般公開を実施した。 【学校評価・HP】 ・リニューアルした学校ホームページでは、生徒会生徒が企画して、中学生を対象とした情報発信に努めている。 ・校長通信では、授業や生徒の活動を画像・動画等を交えて掲載し、学校の様子を伝えるホームページの中心的役割を担っている。
	学校の情報化	ICTを活用した学校環境の整備を図る	ICT(情報通信技術)を活用した学習の研究、充実。 一人一台端末を活用した学習活動の研究・推進。	4.4	【授業への活用実践】 ・Wi-Fi環境が整備されたことによって、オンライン英会話などの動画・音声教材の活用が進んでいる。 【授業への活用研究】 ・電子黒板とオンライン配信を併用するための研修や、教員がオンライン配信で利用するための端末の整備等を行った。(教務) ・タブレット端末を実験に取り入れ、結果などの集約・分析を行うなどの工夫をした。(理科) ・授業でタブレット端末を用いて3次元の図を表示するなど、教材の利点を生かすことができた。(数学)
	安心安全な学校	快適な学校環境の整備を図る	危機管理体制の整備。 いじめ・体罰のない学校環境の確保。 健全な職場づくりの推進。 環境対策(ゴミの削減、電気・水道使用量の削減)。	3.8	【いじめ・体罰への対応】 学校生活アンケートの結果を踏まえて対応する。 【職場環境】 ・コロナ感染症対策のための換気の励行に合わせ、エアコンの利用について配慮した。 【環境対策・危機管理】 ・コロナ対策をしっかりと行っている。(数学) ・コロナ感染症対策については、県等からの通知を受けて必要な対策をとるとともに、生徒・保護者に対する注意喚起を行っている。 ・学校安全衛生委員会を通じて、年休、振休取得、時差出勤の実施等を行っている。 【環境対策】 ・ごみ削減のための対策を講じている。(事務室)